

第 30 回アジア大洋州医師会連合ミャンマー総会

JMA-JDN レポート

JMA-JDN 代表 阿部計大

この度、Japan Medical Association Junior Doctors Network (JMA-JDN) を代表して 2015 年 9 月 23 日から 25 日にかけて行われたアジア大洋州医師会連合 (CMAAO) ミャンマー会議に出席させて頂いたため報告する。

今回会議が行われたミャンマー連邦共和国は人口約 5141 万人 (2014 年 9 月ミャンマー人口省発表) の東南アジアの国である。民族はビルマ族が 70%程を占めており、公用語はビルマ語、約 85%が仏教徒である。ミャンマーと聞くと 1991 年にノーベル平和賞を受賞した Aung San Suu Kyi 氏や 2010 年に行われた総選挙の様子が思い起こされる[1]。しかし、そのような政治的に激動しているイメージとは裏腹に、ヤンゴンに降り立つと JDN の友人である Dr. Wunna Tun が穏やかに私を迎えてくれた。

初日はミャンマー保健省とミャンマー医師会、日本からは厚生労働省と在ミャンマー日本国大使館、日本医師会、JICA が一堂に会し、ミャンマーと日本二国間のヘルスケアに関する協力体制をより深く構築すべく会議を行った。ミャンマーからは災害対策と Universal Health Coverage (UHC) [2]の導入のために日本の協力を得たいという要望があった。まず、災害については、ミャンマーでは 2004 年に津波、2008 年に台風、2015 年に洪水や地すべりなどが起き、その度に数十万人に被害が及ぶ深刻な問題となっているようだった。日本からは厚生労働省が主管する Disaster Medical Assistance Teams(DMATs)やその後の亜急性期に導入される Japan Medical Association Team(JMAT)[3]について紹介し、今後はノウハウの共有を検討することとなった。次に、ミャンマーでの UHC 達成のために医薬品の品質管理システムや供給システムの構築に難渋しているということであったが、日



ミャンマーと日本との会議風景

本では一部の国立病院を除いて医薬品や医療機器は民間企業が自社で行っていることが多く、ミャンマーは国として管理を行おうとしていることから、互いの違いをよく理解することから始めることとなった。会議の最後に JDN メンバーとして一言求められ、既にミャンマーと日本の JDN は交友関係にあることを説明し、10 年後や 20 年後も両国の国民の健康のために互いに協力していく旨をお話した。

CMAAO 総会では主に「Food Safety」をテーマにした各国からの現状報告が行われた。また、その他に各国での問題を共有したり、Health in Danger のテーマで国際赤十字から講演があった。

「Food Safety」については、World Health Day 2015 に WHO がキャンペーン[4]を行い、様々な食品汚染により 200 以上の病気が引き起こされ、世界中で毎年 200 万人が亡くなっているという衝撃的な事実が報告されている。日本でも食品の安全性が問題になることはあるが、他国ではそもそも飲料水の衛生状態すらままならないのである。ミャンマーのホテルでも浴槽に水を貯めると茶色く濁っているのが肉眼でも分かった。また、多くの国々で飲食物中の鉛や水銀、ヒ素、ダイオキシンなどの化学物質、細菌や寄生虫などが問題になっている。バングラディッシュからはプラスチックで作られた米が売られたり、エンジンオイルが料理に使われたりという事例すら聴かれた。それらに対してガイドラインを作成したり、法整備を行ったり、各国は対応に追われている。各国の講演を聴いていると、そのような対策に加えて、最も大切なことは一人一人が手洗いやうがいや心がけ、食品の加熱や保存方法について学ぶことであり、それらが積み重なって各国の文化として根付いていくことなのだと感じた。WHO は Five keys to safer food を提唱している[5]。私は日本で家庭医として診療する中で、幸いなことに食品の加熱や保存方法についてまで患者教育を行う機会はめったにない。これは日本国民のヘルスリテラシーの賜物であり、ほとんどがしつけや教育の中で根付いているためであろう。



CMAAO 参加者集合写真

カントリーレポートでは各国の医師会活動についてのアップデートがあった。特に興味深かったこととして、オーストラリアでは先住民アボリジニとその他の国民との寿命のギャップが話題になっており、また難民の医療アクセスも問題になっているようだった。日本も他人事ではない。この問題に対して、オーストラリアはこれまでの臓器別専門性を押し進める方針からプライマリケアへ移行する方針に変え、平等な医療へのアクセスや UHC を進めているようだ。この問題は健康の社会的決定要因が複雑に絡み合っている難しい問題であると思う。また、インドネシアでは医師会がテレビ局を開局し、小児に蛋白質摂取を促す「100万個の卵プロジェクト」を行ったり、禁煙活動、汚職撲滅運動なども施行しているとのことだった。国民という集団の行動変容を促したり、ヘルスリテラシーを高めるためにメディアの力をかりるのは興味深い方法である。日本でも国民が自ら受ける医療サービスを主体的に選択できるようになることが必要とされており、メディアと協働していくことは良い方法かもしれない。その他にも韓国からは MERS について報告があったり、マレーシアからは TPP 協定についても問題提起があったりと盛りだくさんであった。

そして、国際赤十字から Juerg Montani 氏が Health in Danger[6]について講演された。世界中で紛争に巻き込まれた医療従事者の現状を 2011 年から 2 年間に渡って 20 カ国で調査した結果、1 日 3 件の頻度で起こっているとのことだった。そして、一度医療従事者が亡くなると、周りの医療従事者も怒りや不安により職務を放棄せざるを得なくなり、数千人の患者に悪影響が起きるとのことだった。アジアの国々も危険とは隣り合わせである。一度混乱が起きると医療従事者も守ることは難しいのであろう。映画「ビルマの堅琴」で描かれた日本人の墓地を参拝し、考え深い思いがした。

CMAAO 全体ではアジア大洋州地域から 14 カ国の参加があったが、JDN はミャンマー、フィリピン、そして日本からの 3 カ国だった。少ない参加ではあったが互いに昼食をとりながら近況を共有し、今後の協力体制の構築について密に議論することができた。

そして、今回参加した CMAAO と世界医師会総会を比較して感じたことを記したい。医学生時代に属していた International Federation of Medical Students' Associations (国際医学生連盟) でも同様だったが、同じアジア大洋州地域の仲間ということでシンパシーが通じ合うところがあり親密感がより深まるように感じた。2 日目の夜にはミャンマー医師会主催



JDN の仲間と

で行われた夕食会では、まるでカラオケ大会のように各国の代表が歌い、自由に踊ったりもした。最後にはすべての参加国代表がミャンマーの歌に合わせて輪になって踊るような盛り上がりを見せた。もちろん私も踊った。日本は横倉会長を中心に”上を向いて歩こう”や”昴”を熱唱した。また、アジア大洋州地域では各国からお土産を持ち寄って交換し合ったり、写真を一緒に撮るのが大好きである。議論を戦わせて自国のプレゼンスを保つ欧米の文化とは異なったアジア大洋州地域独自のプレゼンスの示し方であると思う。

また、学会や行政とは異なった価値が CMAAO にはあるように思う。学会では科学的に質の高い議論を行い、行政ではよりマクロな視点に立った議論が展開される。CMAAO は各国の医療の担い手が集まっているので、より実践的で実務的な報告が多いのが特徴のように感じた。学術的に最新の知見や医療制度などマクロな知見を現実に適用していく過程で CMAAO は重要な役割を果たしていると思う。

最後に、このような貴重な機会を与えて下さり、多くの学びを頂いた横倉会長、笠井先生、石井先生、村田先生、そして日本医師会国際課の皆様にご心より感謝申し上げます。

【参考文献】

1. Parmar, P.K., et al., *Health and human rights in eastern Myanmar after the political transition: a population-based assessment using multistaged household cluster sampling*. PLoS One, 2015. **10**(5): p. e0121212.
2. Naoki, I., *Universal health coverage for inclusive and sustainable development : lessons from Japan (English)*. A World Bank study. Washington, DC, 2014.
3. Ishii, M. and T. Nagata, *The Japan Medical Association's disaster preparedness: lessons from the Great East Japan Earthquake and Tsunami*. Disaster Med Public Health Prep, 2013. **7**(5): p. 507-12.
4. World Health Day 2015: *Food safety - the global view, 4th Oct 2015*.
<http://www.who.int/campaigns/world-health-day/2015/en/>
5. WHO: *Five Keys to safer food. 4th Oct 2015*.
http://www.who.int/foodsafety/publications/consumer/en/5keys_en.pdf?ua=1
6. International Committee of the Red Cross: *Health Care in Danger - violent incidents affecting*. 2014.

【CMAAO スケジュール】

Day 1: Wednesday, September 23

Opening / Inauguration Ceremony & the 51st CMAAO Council Meeting

13:30 - 14:30

Opening Ceremony and Inauguration of a new President of CMAAO by Chair

1. Opening: Chair - Dr. Dong Chun Shin
2. Roll Call: Secretary General - Dr. Masami Ishii
3. Welcome and Opening Addresses:
 - 3-1. President of MMA, Prof Rai Mra
 - 3-2. President of CMAAO, Dr. Jose Asa Sabili
4. Congratulatory Remarks
 - 4-1. Secretary General of the WMA, Dr. Otmar Kloiber
5. Installation of the 33rd President of CMAAO for 2015 - 2016
6. Inaugural Address by New President, Prof Rai Mra
7. Presidential Award to the Outgoing President, Dr. Jose Asa Sabili By Prof Rai Mra
8. Group Photo
9. Adjournment

14:30 - 15:00 Tea Break

15:00 - 17:30 The 51st Council Meeting – Chairman – Dr Shin

1. Roll Call by Secretary General – Dr Masami Ishii
2. Opening Remarks
3. Elections (Chair and Vice-chair) for the term of 2015 -17
4. Report of Secretary General
5. Approval of Minutes of the 50th CMAAO Midterm Council Meeting held in Manila
6. Report of the Treasurer Dr. Chan Yee Shing
7. Venue and Dates of the 31st CMAAO General Assembly and 52nd Council Meeting (2016)
8. Venue and Dates of the 32nd CMAAO General Assembly and 53rd Council Meeting (2017)
9. Membership Applications
12. Report of the Committees (by the committee chairs)
13. Other Business: Health Care in Dager in Asia (15 min. presentation by the delegation from ICRC in Yangon)
14. Adjournment

19:00 Welcome Reception

Day 2: Thursday, September 24

The 30th CMAAO General Assembly

09:00 - 10:00 The 13th Taro Takemi Memorial Oration Chaired by JMA officer

1. Introduction of Orator
2. Memorial Oration on Ensuring Food Safety: most important challenge today
3. Presentation of a Plaque to Orator from JMA officer
4. Adjournment

10:00 - 10:30 Tea break

10:30 - 12:30 Symposium: Ensuring Food Safety: An important challenge today:
NMAs 10 minutes each

12:30 - 14:00 Lunch break

14:00 - 15:00 Round-table Discussion on Ensuring Food Safety: An important challenge today

15:00 - 15:30 Tea break

Develop a draft of the resolution on Ensuring Food Safety: An important challenge today by the resolution committee

15:30 - 17:30 Country Report: NMAs 10 minutes each

19:00 Dinner hosted by the Myanmar Medical Association

Day 3: Friday, September 25 - The 30th CMAAO General Assembly

09:00 - 12:30 Plenary Session Chaired by President

1. Approval of Minutes of the 29th CMAAO General Assembly held in Manila
2. Report of the Council Meeting by Chair
3. Approval of the Report of the Treasurer
4. Discussion and adoption of the proposed CMAAO resolution on Ensuring Food Safety:
An important challenge today
5. Approval of the Report of the Committees
6. Appointment of the CMAAO officers for 2015 - 2016

- 6.1 President-elect ... From the host NMA 2016
- 6.2 Two Vice-Presidents ... 1st Vice-president from the host NMA in 2017
2nd Vice-president, optional
- 6.3 Treasurer for 2015 - 2017
- 7. Appointment of Standing Committees 2015 - 2017
 - 7.1 Articles and By-Laws
 - 7.2 Nomination (Ad-hoc)
 - 7.3 Resolution
 - 7.4 Finance
 - 7.5 Membership
- 8. Venue and Dates of the 31st CMAAO General Assembly and 52nd Council Meeting (2016)
- 9. Venue and Dates of the 32nd CMAAO General Assembly and 53rd Council Meeting (2017)
- 10. Membership Applications (if any)
- 11. Other Business ... Theme of the symposium for the CMAAO General Assembly in 2016 and others
- 12. Closing Remarks
- 12:00 Adjournment
- 14:00 – 18:00 City Tour hosted by the Myanmar Medical Association
- 19:00 Farewell Dinner